

かわさき家庭と地域の日

川崎市では、10月9日を「かわさき家庭と地域の日」として、学校を休業にし、おとなと子どもと一緒に休日を過ごす機会を創り出そうとしています。このことをある小学生のお子さんをお持ちの親御さんに話したら、「無理だね。子どもは休みになっても、親は会社が休めない。」と言われました。この言葉をずいぶん前にも聞いたことがあります。それは、学校が週5日制を試行している時期でした。

文部科学省の学校週5日制の導入の理由は「学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、子どもたちに生活体験・社会体験や自然体験など様々な活動を経験させ、自ら学ぶ力や豊かな人間性などの『生きる力』を育成するために提言された」と書かれています。また、「激しい変化が予想されるこれからの社会においては生涯を通じて、いつも主体的に学び続けるという生涯学習の考え方が重要になってきます。教育は学校教育のみで完結するものではありません」ともあります。

学校週5日制の施行が始まったのは平成4年のことです。あれからもう26年が過ぎようとしています。学校・家庭・地域社会の連携はどこまで深まったのでしょうか？子どもたちが主体的に学び続けるという生涯学習の視点は定着したのでしょうか？

8月29日の読売新聞で「主体的・対話的で深い学びへ手探りが続いている」という記事を目にしました。大切なことだと思われる言葉がたくさん書かれていました。

- ・他者との交流は学習効果が高い。学びや成長は異質なものと出会うことでもたらされる。
- ・入試で表面的な知識を重視すれば、親も教師も表面的な知識を重視するから実社会・実生活で学んだことが軽視される。
- ・日本の教育課題として、変化する時代に不可欠な生涯学習が低調だ。

26年前に比べて共働き家庭は急増し、少子高齢化は当時の予想をはるかに超えた速度で進行しています。また、情報機器等の普及で、知識は日々陳腐化し、人々は一層変化の激しい社会の中で生きていくようになりました。

26年前に「土曜日は休めない」と言っていたお父さん・お母さん、ようやく地域社会で子どもとかかわれる年代になりましたよ。今こそ、生涯学習の時代です。おとなと子どもが豊かな学びを共有する日を創ってみませんか？

ささやかな試みですが、私たちの川崎市生涯学習プラザでも「かわさき家庭と地域の日」の実施に向けて、子どもたちがおとなと一緒に多様な学習・体験活動をできる場を無料で貸し出す事業（※）を始めました。どうぞ、ご活用ください。(M.Y)

※かわさき家庭と地域の日の実施プログラムに伴う生涯学習プラザの無料貸出について

(ホームページに接続)